



温室効果ガス排出量 検証報告書

2024年7月19日

株式会社良品計画 御中

一般社団法人日本能率協会
地球温暖化対策センター
上級経営管理者 丸尾 智雅



1. 検証の対象及び目的

株式会社良品計画（以下「事業者」という。）が作成した算定対象^{※1}における温室効果ガス（GHG）排出量算定結果「2023年8月期算定報告書」（以下「算定報告書」という。）に記載の2022年9月1日から2023年8月31日までの以下のGHG排出量情報について、事業者は、一般社団法人日本能率協会地球温暖化対策センター（以下「当協会」という。）に対し、限定的保証を目的とした検証を依頼した。

1)スコープ1 GHG 排出量

- ・算定対象において使用された灯油、軽油、LPガス、都市ガス、及び、
国内において事業者の車両が使用したガソリンに伴って直接的に排出されるCO₂排出量
- ・国内の算定対象においてフロン漏洩に伴って排出されるCO₂排出量

2)スコープ2 GHG 排出量

算定対象において電力、熱の使用に伴って間接的に排出されるCO₂排出量

3)スコープ3 GHG 排出量

算定対象の事業活動におけるスコープ3 カテゴリ1^{※2}において排出されるCO₂排出量

検証の目的は、事業者のGHG排出量情報が算定方法^{※3}に従って、正確に測定、算出されているかについて、独立の立場から結論を表明することである。算定報告書を作成しGHG排出量情報を報告する責任は事業者にあり、当協会の責任は、独立の立場から算定報告書に記載されたGHG排出量情報に対する結論を表明することにある。

2. 検証手続き

当協会は、ISO14064-3:2019 (Greenhouse gases - Part 3: Specification with guidance for the verification and validation of greenhouse gas statements)の要求事項に従って検証を実施し、以下の事項を実施した。

- 算定報告書に記載のGHG排出量を決定するために用いられた情報に関する、算定方法、排出量算定システム、及び、関連資料の確認
- 算定報告書の作成に関わる主な担当者へのインタビュー
- GHG排出量の正確性を確認するためにサンプリングによる根拠となる資料の確認

3. 検証の結論

算定報告書に記載された GHG 排出量情報は、算定方法に従って、すべての重要な点において正確に測定、算出されていないと認められるような事項は発見されなかった。

検証された温室効果ガス排出量 (t-CO ₂ e)	
スコープ 1	1,355
スコープ 2 (ロケーション基準) ※4	78,025
スコープ 2 (マーケット基準) ※5	75,658
スコープ 3	1,244,281
スコープ 3 内訳	
カテゴリ 1	1,244,281

NOTE:

※1：算定対象：

連結対象範囲

- ・国内：無印良品 486 店舗、IDÉE 10 店舗、Café&Meal MUJI 29 店舗、物流センター 2 抱点、キャンプ場 3 抱点、オフィス他 8 抱点
- ・海外：無印良品 620 店舗、Café&Meal MUJI 27 店舗、物流センター 1 抱点、オフィス他 13 抱点

※2：スコープ 3 のカテゴリ 1：

- カテゴリ 1（購入した製品・サービス）：事業者が購入した製品、主要な間接調達、水の使用を対象

※3：スコープ 1, 2, 3 の算定方法：

「サプライチェーンを通じた温室効果ガス排出量算定に関する基本ガイドライン (ver.2.5)」、「サプライチェーンを通じた組織の温室効果ガス排出等の算定のための排出原単位データベース (ver.3.3)」、「LCI データベース IDEAv2」、「グローバルサプライチェーンを考慮した環境負荷原単位(2005年)」、及び、事業者が作成した「サプライチェーン排出量算定シート」

※4：電力の排出係数（ロケーション基準）：

- ・国内：電気事業者別調整後排出係数を使用
- ・海外：IEA Emissions Factors 2023、中国政府公表の値等を使用

※5：電力の排出係数（マーケット基準）：

- ・電力供給元に関する情報がビル運営会社等から得られない場合、その地域の小売電気事業者、あるいはロケーション基準の排出係数を使用

以上